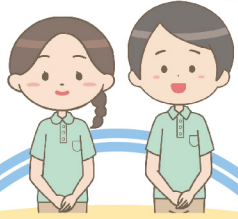


## 在宅サービスチーム

利用される方が日常生活を安全に行え、その人らしい暮らしが続けられるようにチームの一員として共に考えます。



### 訪問リハビリテーション

訪問リハビリで運動能力や日常生活に必要な能力を評価します！



かかりつけ医



通所サービス



ヘルパー



ケアマネジャー



福祉用具業者



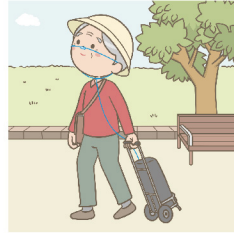
ご利用者  
ご家族



看護師

## その他、こんな訪問リハビリもあります

子どもさんの身体状況に応じた機能訓練や発達に関する相談



酸素を利用している方、心臓疾患をお持ちの方のリハビリ



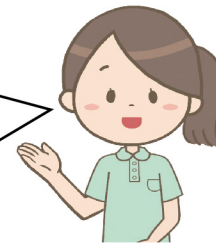
ターミナル(終末)期の疼痛緩和や心理サポートも可能です

### ご利用方法

介護保険ご利用の場合はお住まいの地域の地域包括支援センターまたは市町村の介護保険課にご相談ください。既に担当ケアマネジャーがいる場合にはそちらにご相談ください。

医療保険ご利用の場合は、まずは主治医やその医療機関の相談窓口にご相談ください。

◆公益社団法人  
熊本県理学療法士協会 HP◆



# 訪問リハビリ テーションガイド



公益社団法人  
熊本県理学療法士協会

# 訪問リハビリテーションってどんなことをするの？（一人一人に必要なリハビリを行います）

## 若年層支援の例

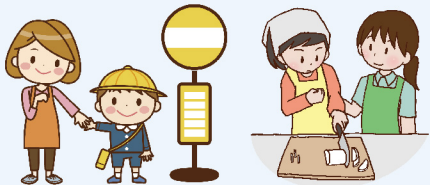
40歳代 要支援2  
脳出血

脳卒中を発症し片麻痺となり、伝い歩きができるまでに回復し自宅に退院。将来は就労を希望されているが、まずは主婦としての役割の再獲得に向けて訪問リハを開始した。

### 訪問リハご利用で

料理や洗濯などの家事動作を片手でも出来る方法や工夫を提案、練習し、家庭内での役割を獲得しました。

子どもの送迎でバスを利用するため、バス停までの移動を評価し、練習をしました。地元のバス会社にも協力を依頼し、バスの見学をさせてもらった上で実際に乗車練習を実施しました。



生活範囲が広がったことで就労への意欲が向上し、就労支援を開始。企業に対して身体機能や能力について情報提供を行いました。その結果無事就労へつながり、現在も元気に働いています。

**障がいのある方に対し生活での工夫や練習、必要時には就労先との連携も行います。**  
**家庭や社会での役割を担えるようサポートします。**

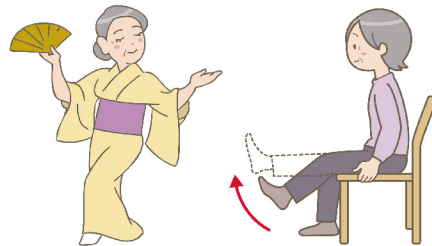
## 機能回復の例

90歳代 要介護2  
心不全

心不全による入院で体力が落ちてしまったが、生きがいである日本舞踊教室を再開し、もう一度舞台に立ちたい。

### 訪問リハご利用で

一人で和服の着付けができるよう肩関節の柔軟性を高める練習や握力の強化を行いました。踊りに必要な足腰の強化とバランス練習を行いました。



自宅で一人でも安全かつ効果的で長く続けられる自主トレーニングを提案しました。自宅での活動量や自立度が向上した結果、日本舞踊教室を再開し発表会の舞台に立つことができました。

**身体機能を回復させるリハビリを行い、ご自身でできる運動を提案することで生きがいへの再チャレンジを支援します。**

## 神経難病の例

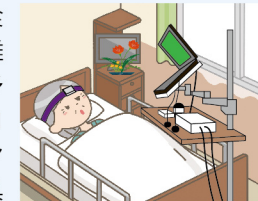
70歳代 要介護5  
筋萎縮性側索硬化症 (ALS)

数年前にALSの診断を受けられ、現在ベッド上で生活されている。診断から1年後より訪問リハビリの利用が開始となった。

### 訪問リハご利用で

主治医と連携しながら、可能な体操やストレッチの実施、自主トレーニングの練習を行い、二次的に身体が弱ることを予防しました。

症状が進行し、食事や会話などが難しくなることが予想されたため、コミュニケーション支援機器や補助具を紹介し、導入、使い方の練習を行いました。



またベッド上のポジショニングについて家族やヘルパーと相談し、本人が安楽に過ごせるように調整を行いました。現在ベッド上での生活が主体になっていますが、自宅で過ごされています。

**病気が進行しても主治医、多職種との連携や福祉用具や住宅改修の活用、日常生活動作の練習や介護方法の検討により在宅生活の継続をお手伝いします。**

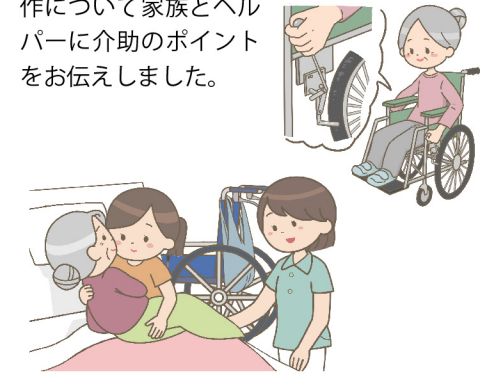
## 福祉用具活用の例

70歳代 要介護3  
脳梗塞

数年前に脳梗塞を発症し、長く療養生活を送る中で、身の回りの事を自分で行う事も減り、本人の体力も落ち日常生活においてほぼ全面的な介助が必要となった。

### 訪問リハご利用で

生活機能面的に的確に評価し、保有能力を活かし目的や身体に合った車いすを提案しました。さらにベッド上での動作や車いす移乗動作について家族とヘルパーに介助のポイントをお伝えしました。



本人自身で出来ることが増え、家族の介助量と精神的疲労が改善しました。日中、車いすで生活される時間も増え、家族団らんで過ごす時間が増えました。

**身体機能の状態を的確に評価し、適正な福祉用具利用や住宅改修を行うことでご利用者の安全かつ能力の維持・向上をサポートします。**